

故郷「いわき」の再生と復興を目指して

はじめに

いわき市は福島県の東南端に位置し、東は太平洋に面しており、南は茨城県と境を接し、寒暖の差が比較的少なく、温暖な気候に恵まれた地域です。

昭和30年代、エネルギー革命の進展により石炭産業が斜陽化し、産炭地域であった本市の経済も大きな打撃を受けました。そのような中、新産業都市の指定を受け、昭和41年に14市町村による大同合併を成し遂げ、当時としては日本一広い市を誕生させ、工業化を進めたほか、映画「フラガール」にも描かれたように、炭鉱から観光へと地域の再生を果たしています。この「フラガール」で有名なスバリゾートハワイアンズをはじめ、市内には、いわき湯本温泉、国宝白

水阿弥陀堂、美空ひばりのヒット曲「みだれ髪」に歌われた塩屋埼灯台、環境水族館「アクアマリンふくしま」など、さまざまな観光スポットを有しています。

被災状況と現状

東日本大震災は、大地震、大津波、そして福島第一原子力発電所事故が重なった世界に類を見ない複合災害として、本市に甚大な被害を及ぼしました。震災によって奪われた尊い生命は450名を超え、建物の被害も9万棟に達したほか、原発事故に伴う直接・間接の被害や影響は市民生活の各般にわたっており、多くの方々が、今なお大変な苦勞をしています。

また、本市は被災地である一方、隣接する双葉郡の町村などから約2万4000人の原発事故に伴う

避難者を受け入れており、被災地の中でも特異な状況に置かれています。

力強い復興に向けて

このような状況にあります。本市では「市復興ビジョン」に基づき、災害に強い社会資本を整備するとともに、被害の大きかった沿岸域などについては住民の意向や地域特性に応じた再生を図るなど、市民生活に密接に関連する社会基盤の再生・強化に取り組んでいます。

現在、津波被災地においては、槌音高く工事が進められており、津波防災緑地の整備や被災市街地復興土地区画整理事業の導入、防災集団移転の促進を図っております。住宅を失った被災者が入居する災害公営住宅1513戸は、本年3月より入居が開始され、平成27年

度末までにはすべての被災者が入居できる予定となっております。

また、安全・安心のさらなる向上に向け、災害時の円滑な避難を確保する観点から、幹線道路網の整備に努めるほか、災害時情報伝達機能の多重化など、災害に強いまちづくりに取り組んでいます。

さらに、経済・産業の再生に向け、原発事故による風評被害の払拭を図るため、農作物・工業製品などに係る放射線量の検査体制を整備するとともに、観光産業などにおいては、さまざまなキャンペーンに取り組んでいます。また、地域経済の活性化および雇用の創出を図るため、再生可能エネルギーをはじめ、環境、医療・福祉、蓄電池、ロボットなど、成長が見込まれる産業の集積や育成に努めています。

文化庁長官表彰と「太平洋・島サミット」の開催

震災以降、風評の払拭を図るた



毎年2月に開催される「いわきサンシャインマラソン」

め、本市の安全性や魅力などについて、積極的な情報発信に取り組んでいます。

このような中、本年5月に文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受彰しました。市内に残る伝統文化の保存・継承と同時に、いわき芸術文化交流館アリオスや市立美術館などの文化施設による各種事業のほか、「フラガールズ甲子園」や「太平洋諸国舞踊祭」をはじめ、「フラガール」をキーワードとした官民協働による地域活動など、文化芸術による地域の活力向上の取り組みが高く評価されたものと受け止めています。ハード面の復

興は、資金と時間を要すれば元に戻りますが、最後は「人の心の復興」が大切であると考えており、文化・芸術・スポーツなどの各種イベントの開催を通じて、市民

の皆さまの「心の復興」を図ってまいります。

また、平成27年5月に国際会議「第7回太平洋・島サミット」が本市で開催されます。これは3年に一度、太平洋の島国の首脳を日本に招き開催されるものですが、太平洋の島国は親日的で、国際社会において日本を支持してくれる重要なパートナーといわれていることから、これを機に、市内への誘客に努めるとともに、本市の安全性や魅力を国内外に広く発信することとしています。

おわりに

東日本大震災に際しましては、これまで、全国の皆さまからさまざまなご支援・ご協力をいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。

私は、平成25年9月の選挙で「生まれ育ったふるさとを良くしたい」という一心で立候補し、当選させていただきました。少子・高齢化の急速な進行などを背景に、行財政環境が厳しさを増し、そして何よりも、東日本大震災からの一日も早い復興が求められている極めて重要な時期に、市政運営の舵取

りを担う使命の重要性と責任の大きさを重く受け止めています。

重点的に取り組む施策として、本市が直面する医療、職・雇用、住居、いわゆる「医・職・住」にかかわる課題の解消に向けて、全力で取り組み、市民の皆さまが将来に希望の持てるまちづくりを進めています。そして、6年後の「東京オリンピック・パラリンピック」の

開催を復興の目標年次と定め、関連イベントなどを官民一体となつて実施することにより、世界中が驚くような、復興した「いわき市」の姿をアピールしていきたいと考えています。

復興への道のりは決して平坦ではありませんが、「明るく元気ないわき市」の創造を目指して、全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 1231.35km²
- ◆ 人口 33万4030人
- ◆ 世帯数 14万2260世帯

〔将来都市像〕「循環を基調とした、持続可能なまち」「誰もが安全に、安心して暮らせるまち」「活力に満ち、創造力あふれるまち」

〔まちの特徴〕広大な面積を持ち、温暖な気候と豊かな自然に支えられ、農林水産業、工業、観光業など多様な産業が発展している拠点都市（中核市）
〔特産品〕包装かまぼこ、ういの具焼、



いわき市長
清水敏男



さんまのみりん干し、かつお薫焼、めひかり、アンコウ、カジキメンチ、トマト、梨、いちじく
〔観光〕いわき湯本温泉、スパリゾー トハワイアンズ、国宝白水阿弥陀堂、アクアマリンふくしま、いわき市石炭化石館、いわき市アンモナイトセンター、塩屋埼灯台
〔イベント〕いわきサンシャインマラソン、いわき花火大会、いわきおどり、平七夕まつり、いわき回転櫓盆踊り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

市民が主役の 安心・安全なまちづくり

はじめに

筑西市は、茨城県の西部、万葉集にも歌われている筑波山の西側に位置し、風光明媚で豊かな自然に抱かれたまちです。農業・商業・工業の調和の取れた産業構造の下、発展を続けていますが、特に農業産出額は全国有数で、特産の米、梨、こだますいか、きゅうり、トマト、いちご、常陸そばは、消費者から高い評価を受けています。

わがまち自慢

毎年7月最終週の木曜日から4日間行われる「下館祇園まつり」は、明治神輿と女子神輿、担ぎ出される神輿としては日本一の平成神輿、そして30数基の子ども神輿が市街地を渡御する姿は、人々を熱狂の渦に引き込みます。また、秋になると市内を流れる勤行川では、産卵のため遡上する鮭を見ることことができます。市街地で鮭の産卵が見られるのは大変珍しく、ふるさとの風景の一つとして定着しています。さらに母子島遊水地は、茨城県が主催した「筑波山ベストビューコンテスト」で最優秀賞を受賞するなどたくさんカメラマンが訪れる場所で、水面に映るダイヤモンド筑波や桜の名所として有名になっております。

そして、何といっても2人の文化勲章受章者「陶芸家の板谷波山氏」「洋画家の森田茂氏」のふるさとであり、市民にとっての大きな誇りとなっています。ご両人の作品は、しもだて美術館や板谷波山記念館でご覧いただけます。

駅前再開発ビル「スピカ」の有効活用と駅前活性化

本市の下館駅北口に立地する駅前再開発ビル「スピカ」は、空きフロアが目立つなど有効活用がされぬまま時間だけが経過しており、スピカビルの有効活用とともに、下館駅前市街地の活性化が強く望まれていました。一方、市役所本庁舎は、東日本大震災の被災により、国の示す耐震基準を満たしておらず、本庁舎の速やかな安全確保が課題となっております。そ

こで、市議会議員や各分野を代表する市民の皆さまにご協議いただき、市役所本庁舎や市民サービス施設、商業・業務スペースを含む複合施設となる「スピカビル活用プラン」を策定いたしました。このプランに基づき改修工事などを実施し、平成28年度にはリニューアルオープンを予定しております。これにより、市民の皆さまの安心・安全の確保と利便性の向上、さらには下館駅前の活性化が図れるものと期待しております。

新中核病院の整備

茨城県の医療環境の現状は、人口10万人当たりの医師数は167人で全国ワースト2位であります。その中でも本市を含む筑西・下妻保健医療圏の医師数は99・7人であり、深刻な医師不足地域となっております。また、病気を発症して間もない時期に病状の進行を食い止める状態が安定するための急性期医療を担える病院が極端に少ない状況



川渡御のみそぎの儀式



水面に映るダイヤモンド筑波

となっております。これまで、その中核的役割を果たしてきた公立病院についても、医師不足などによる医療機能の低下により事実上急性期医療を担えない状態になっております。新中核病院の整備を進め、地域で完結できる医療供給体制の確立に努めてまいります。

行ってみたい・住んでみたい・住んで良かったと思える「筑西市」の実現に向けて

日本創成会議人口減少問題検討分科会の試算によると、2040年には全国で896の自治体が消

滅可能性都市になるとのデータが示され、残念ながら本市もその一つに含まれました。本市の人口は、平成17年の合併からの9年間で8000人以上の人口が減少しております。この深刻な人口減少問題に取り組むため、本市の20代から30代の若手職員30人で構成する人口減少・定住促進化ワーキングチームを立ち上げました。このワーキングチームは、住みやすさや楽しさをPRする戦略を検討する「魅力増進部会」、婚活・子育てしやすいまちを目指すための施策を検討する「婚活・子育て支援部会」、雇用・定住促進のための施策を検討する「若者雇用定住促進部会」の3つに分かれ、業務にとらわれることなく自由な発想で提言をしてもらい、事業化できるものについては、平成27年度の施策に反映させていくものです。この問題は、本市だけでなく、国全体の問題であると認識しているところですが、市で考えられる施策を推進するとともに、国や県、企業などと連携を図りながら、未来の子どものためにも、そして市民の皆さまが心から住んで良かったと思える「筑西市」の実現のためにも

力の限り頑張っております。

オール市民党で市政を進めるために

平成25年から各小学校校区を単位として、市長と語ろう！「ちくせい市政懇談会」を開催しております。この市政懇談会は、市民の皆さまと一緒に市や地域の課題について、あらかじめ設定したテーマに基づき一緒に考え、知恵を出し合うこ

とを目的としております。私の市政運営の基本は、市民の皆さま、市政会の皆さまの意見を良く幅広くお聞きし、十分に議論を尽くすことにより、オール市民党で市政を進めていくことです。市の財政状況は、今後も厳しい状況が続くものと予想されますが、限られた財源を有効に活用し、「市民が主役の安心・安全なまちづくり」を推進してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 205・35km²
- ◆ 人口 10万5038人
- ◆ 世帯数 3万6120世帯

〔将来都市像〕人と自然 安心して暮らせる 共生文化都市

〔まちの特徴〕筑波山の西側に位置し、鬼怒川・小貝川など5本の一級河川が南北に流れる風光明媚で豊かな自然環境に抱かれたまち

〔市町村合併〕平成17年3月28日、下館市、関城町、明野町、協和町が合併



筑西市長 須藤 茂



〔特産品〕米、梨、こだますいか、きゅうり、トマト、いちご、常陸そば、桐下駄など

〔観光〕内外大神宮、鮭の遡上、中館観音寺、母子島遊水地、しもだて美術館、板谷波山記念館、真岡鐵道のSL列車など

〔イベント〕下館祇園まつり、どすこいペア、あけのひまわりフェスティバル、小栗判官まつり、ちくせいマラソン大会など

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

住んでよかった…住みたくなる… ゆったりやすらぎの田園都市を目指して

北近畿の
クロスポイント

この夏、北陸自動車道と中国自動車道とつながる舞鶴若狭自動車道が全線開通、また京都府の南北をつなぐ京都縦貫自動車道も平成27年春には開通します。そしてこの2つの高速道路の結節点が、京都府のほぼ中央に位置するわがまち綾部です。

5月には、新たに「あやべ特産館」を整備し、隣接するゲンゼ博物館、綾部バラ園とともに、観光交流スポット「あやべゲンゼスクエア」としてオープンしました。

綾部市は、こうした「追い風」を



ゲンゼ博物館、綾部バラ園、あやべ特産館からなる新たな観光交流拠点「あやべゲンゼスクエア」

とらえ、新たな価値や感動の創造・発信を通して、「田園」の持つ自然

や里山の魅力と「都市」の持つ快適性や利便性とを実感し、豊かな暮らしを満喫できる「ゆったりやすらぎの田園都市」を目指しています。

まちづくりのキーワードは「医・職・住」

第5次綾部市総合計画（平成23～32年）を策定するに当たり、市の人口構造をはじめ産業・財政構造などを詳細に診断したところ、高齢者人口は平成27年をピークにその後減少に転じること、そしてさらに深刻なのは、生産年齢人口の急速な減少であることが判明しました。このことから、今後本市が持続的に発展するために、社会動態による人口減少をできる限り抑えるための施策展開として、定住促進、交流促進、そしてそのための情報発信に取り組むことといたしました。

ました。

まずは、今住んでいる綾部市民が「住んでよかった」と思えるまちづくりを進めるため、キーワードを「医・職・住」とし、現在の課題解決とともに将来への種まきとなる施策に取り組んでいます。すなわち「医」は地域医療をはじめ、介護・福祉・子育て支援の充実、「職」は雇用促進、農林・商工・観光振興、「住」は安全安心、住環境整備、教育・文化・スポーツ施策の充実です。市民がわがまちのよさを実感し、その魅力に誇りを持ってこそ、地域に根差した市民によるまちづくりが可能であり、自信をもってふるさと綾部を語り、発信できると考えるからです。

交流から定住へ

一人でも多くの人に綾部を訪れてほしい、そして移り住んでほしい…「住みたくなる綾部」が次のステップです。農村都市交流、田舎暮らし体験、空き家見学ツアーな

ど交流イベントの開催や、空き家物件仲介、定住支援住宅の整備、Uターン者住宅取得等資金融資あつせん制度など、交流人口やUターン者の増加につながる諸施策を積極的に展開しています。さらに就農・就職支援、地域活動支援、定住後の地域活動への参加促進やUターン者の集い開催など交流から定住までの総合的な支援に取り組み、この窓口を通じての定住は、平成25年度末までに117世帯272人、全国第3位の実績となっています。



全国第3位の定住実績を支える「空き家見学ツアー」

住みたくなる綾部へ さらなる情報発信

平成11年から始めた「あやべ特別市民制度」は、市外に暮らす綾部市出身者やゆかりのある人との絆をはぐくみ、会員数は現在2000人となりました。年会費1万円で、毎月の会報や広報紙などで旬のあやべ情報を発信するとともに、ふるさと自慢の特産品を年3回発送することで集落の活性化にもつながっています。ホームページやメルマガ、手紙などで相互交流もでき、心強い綾部の応援団です。「ふるさとあやべ訪問ツアー」も実施し、交流が広がっています。

また、本市のマスコットキャラクター「まゆピー」は、綾部が養蚕とともに発展してきた歴史と、日本で初めて「世界連邦都市宣言」をした平和のまちであることから、繭(まゆ)とピース(平和)にちなんで命名しました。今後はものづくりと平和のまちをPRするため、さまざまな場面でこのゆるキャラを活用した情報発信を展開していきます。

ます。

心の豊かさや環境と調和する生活の重視など人々の価値観が大きく変わりつつある今、綾部のよさ、綾部らしさをしっかりと打ち出し、わが市に「住んでよかった」さらには「住みたくなる」綾部を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 347・11km²
- ◆ 人口 3万5534人
- ◆ 世帯数 1万5729世帯

〔将来都市像〕住んでよかった・ゆつたりやすらぎの田園都市・綾部

〔まちの特徴〕京阪神地域から1時間余り、由良川の清流、美しい田園風景や魅力あふれる里山と、ものづくりのまちとして都市の持つ快適性、利便性と併せ持つ「田園都市」

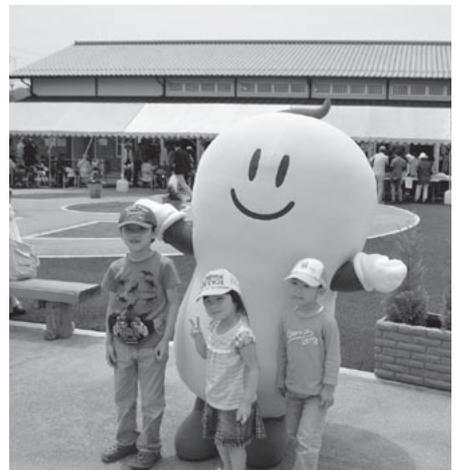
〔特産品〕黒谷和紙、綾部茶、米、京みず菜など京野菜、鮎、丹波くり、



綾部市長
山崎善也



丹波まつたけ、各種農産物加工品
〔観光〕あやべグレンゼスクエア(グレンゼ博物館・綾部バラ園・あやべ特産館)、光明寺二王門、大本長生殿、安国寺、私市円山古墳公園、大トチの木、立岩、あやべ温泉、綾部市天文館、ふれあい牧場
〔イベント〕あやべ水無月まつり、里山サイクリングin綾部、あやべ二王門登山レース、大本節分大祭、あやべ丹の国まつり、あやべ産業まつり、バラまつり



子どもたちに大人気の綾部市マスコットキャラクター「まゆピー」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「世代を越えて夢紡ぐまち」を目指して

はじめに

吉野川市は、徳島県の北部、「四国三郎」こと吉野川の中流域南岸に位置し、市の名称は、その吉野川を由来としたものです。北に、その吉野川が流れ、南には四国山地が位置し、別名「阿波富士」とも呼ばれる高越山をはじめとする急峻な山々が連なっております。これらの山々を水源とする川田川を



吉野川から望む「阿波富士」こと高越山

はじめ大小の支流が、吉野川に合流しており、その平野部に本市のまちが広がっています。

また吉野川市の前身である「麻植郡」は、807年に記された『古語拾遺』より阿波忌部氏(古代氏族)が麻の種を植えたために名付けられた歴史的名称でありました。市内山川地区では、天皇即位時の一代に一度の儀式である「大嘗祭」で使われる麻を素材とした鹿服と呼ばれる衣を献上する大切な役割を代々担っています。

「住んでみたい、住み続けたい」という魅力を創出

本市は、10年前の平成16年10月1日に、旧麻植郡の鴨島町、川島町、山川町、美郷村の3町1村が合併し、平成の大合併における徳島県内第1号の新しい市として誕

生いたしました。

合併に際して、さまざまなハード事業などの計画がありました。が、合併後は、持続できる市として、身の丈に合った堅実な財政運営を心掛け、事業の選択と集中に努めてまいりました。

また行財政改革では、明確な目標値を設定し、特に一昨年には課題でありました合併時からの分庁方式を見直し、庁舎統合を完了させたところ です。

そして、この庁舎統合により、空き庁舎となった川島庁舎を「幼保連携型子ども園」(川島こども園)に、山川庁舎は公民館と老人福祉センターを併設した「地域複合施設」(山川地域総合センター)として改修整備いたしました。

一方、本地域において、近い将来に発生が懸念される「南海トラ



川島庁舎を利活用した「幼保連携型子ども園」(川島こども園)

フ巨大地震」や、毎年のように襲来する台風やこれまでの想定を越える集中豪雨などに備え、小・中学校をはじめとする公共施設の耐震化や消防署庁舎の免震化による改築、自主防災組織化率100%の実現など、市民の安全安心につながるために万全な体制で臨んでおります。

また、これら防災をはじめとした重要施策に対応しながら、道路

や上下水道などのインフラ整備につきましても、市内全域に対して計画的に進めております。

新市施行の際、市の将来像として「世代を越えて夢紡ぐまち」を掲げ、その実現のため、こういった数々の施策を行ってまいりました。合併以降、地方財政を取り巻く状況は、ますます厳しさを増している状況にはありますが、「吉野川市に住んでみたい、住み続けたい」という魅力を創出し、市民の皆さますべてが夢を紡ぎ、一歩一歩着実に世代を越えて、まちづく



NHK大河ドラマをテーマとした「菊人形展」

りを進められるように、取り組みを進めているところであります。

わが市の自慢

市内中心部である鴨島町の「菊人形・菊花展」は、大正14年の秋に四国で初めて開催され、以降約90年の歴史があります。

現在は、菊人形・菊花展のほかにも地域住民や小学校の協力により、市内の各所に色とりどりの菊を植えられ、菊花が香り、市民が楽しむとともに来訪者にも楽しんでいただいております。

また本年は、四国八十八ヶ所霊場のご開創1200年を迎え、弘法大師(空海上人)の修行の地である、本市内の四国霊場11番札所「藤井寺」には、国内をはじめ海外からも大勢の方々がお遍路さんとして訪れております。

一方、市内美郷地区は、急峻な山の斜面に位置し、古くから段々畑や家を守るための石積みが発達してきた地域であります。

地区では、徳島県下でも梅の生産が盛んに行われています。地場産の梅を使った梅酒で地域を盛り上げようと「梅酒特区」を申請し、平成20年7月に全国で初めて認定

を受け、以来、生産農家が手仕込みし、自家製ブランドとして販売を行っています。

「市制10周年」を迎えて

本年10月は、合併10周年という節目でもあります。TVでも有名な片岡愛之助さん出演の「錦秋吉野川歌舞伎」をはじめさまざまな記念事業にも取り組みながら、市

制10周年を盛り上げ、11年目への新たなスタートラインに立つ日でもあります。

過去10年間の歩みをしっかりと踏まえ、今後においても安全で安心して暮らせるまちづくりにより、新たな飛躍に向け、「住んでよかった、住み続けたい吉野川市」実現のため、全力で取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 144.19 km²
- ◆ 人口 4万3602人
- ◆ 世帯数 1万7947世帯

〔将来都市像〕世代を越えて夢紡ぐまち
 〔まちの特徴〕「四国三郎」こと吉野川と豊かな自然環境に恵まれ、伝統と文化の生きつぐまち

〔市町村合併〕平成16年10月1日、旧麻植郡3町1村(鴨島町、川島町、山川町、美郷村)が合併

〔特産品〕「吉野川ブランド」認証品、なす、洋にんじん、スイートコーン、



吉野川市長
川真田哲哉



ニンニク、ブロッコリー、梅
 〔観光〕江川湧水源、川島城、船窪つづじ公園、阿波和紙伝統産業会館、高開の石積み、ホテル、母衣暮露滝、藤井寺

〔イベント〕最後まで残った空海の道ウォーク、美郷ほたるまつり、五九郎まつり、阿波踊り、菊人形菊花展、美郷梅酒まつり、美郷梅の花まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。